第 15 章　工事しゅん功　目次

第 15 章　工事しゅん功　目次 1
第 15 章　工事しゅん功 2
15－１　工事書類の簡素化について 2
15－２　電子納品について 2
15－３　再生紙の使用等について 2
15－４　工事しゅん功図 2
15－５　しゅん功原図の記載方法 3

第 15 章　工事しゅん功

15－１　工事書類の簡素化について

工事書類の簡素化は、下記ＵＲＬに掲載している「札幌市　工事書類簡素化要領」による。なお、当該要領の対象工事は、札幌市発注の設計金額が250万円を超える土木工事とする。

https://www.city.sapporo.jp/zaisei/kojikansa/kantoku/kantoku_kensa.html

※1　下水道管きょ工事では、「**工事書類簡素化一覧表**」のうち、「**(別表1-2) 監督員が準備する書類 (2/2)　品質管理　⑦材料品質管理**」に記載している書類のほか、「**下水道用資機材使用届**」を作成すること。なお、書類の種別および確認方法は下表を参照すること。

（別表１-２）監督員が準備する書類（２/２）（監督員に提出済みの資料）

分　類	書　類　名 （電子データ◎、紙■、選択△） 書類の種別は①監督員提出時 書類の種別は②検査時(監督員が作成)	①	②	作成書類の確認方法 監督時 確認書類	監督時 提出書類	検査時 確認書類	備　考	該　当　根　拠
品質管理	⑦ 材料品質管理	△	■		○	○		
	海外建設資材品質審査証明書						※海外のJISマーク表示認証工場以外で生産された建設資材を使用する場合に当該証明書、あるいは日本国内の公的機関で実施した試験結果資料を提出する。	土木工事共通仕様書1-2-2-1 土木工事共通仕様書1-3-6-2アスファルト舗装の材料
	指定材料品質証明・試験結果						※設計図書において試験を行うこととしている工事材料の試験結果、見本又は品質を証明する資料を事前に提出することと指定された工事材料(JISマーク表示品を除く)	
	下水道用資器材使用届						下水道管きょ工事仕様書3-2-1	

15－２　電子納品について

受注者は、施工計画書、施工協議簿、出来形及び品質管理（表：図）、工事写真等、土木工事共通仕様書や法律等で紙媒体での提出が義務無づけられている書類を除き、全て電子納品による提出を行うことができる。対象については監督員と協議すること。

提出ファイルのデータ形式は、施工段階においては、ファイル形式を Microsoft Excel 形式、Microsoft Word 形式、PDF 形式、DWG 形式、DXF 形式を標準とする。竣工時は、PDF 形式を標準とする。

電子データの受け渡しは電子メール、電子媒体（CD・DVD）、ASP 等から監督員と協議し、適切な方法を選択すること。電子納品の対象とした書類については、施工段階においても紙媒体による提出は求めない。

電子納品を行った書類については、検査時にも PDF ファイルによる検査を標準とするため、検査時には必要となるパソコン等の器材を用意すること。

15－３　再生紙の使用等について

紙の使用量の削減、工事竣工書類の再資源化、保管スペースの縮小等に配慮し、各種提出書類には**再生紙**を使用し、**両面印刷**を行なって作成するよう努力すること。

なお、デジタルカメラに関する規定等は、第 16 章 5 項の写真管理基準を参照すること。

15－４　工事しゅん功図

工事しゅん功図とは、下記のものをいう。

１　出来高図

出来高（しゅん功値）を**図面**に朱書きで追記したもの。

２　しゅん功原図

出来高（しゅん功値）等を記入した**図面**（15－3 参照）

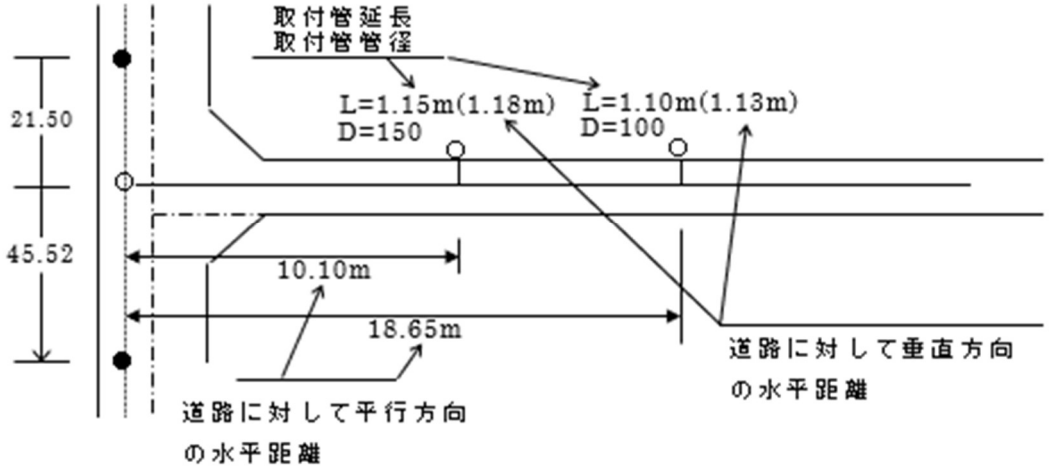
15－５　しゅん功原図の記載方法

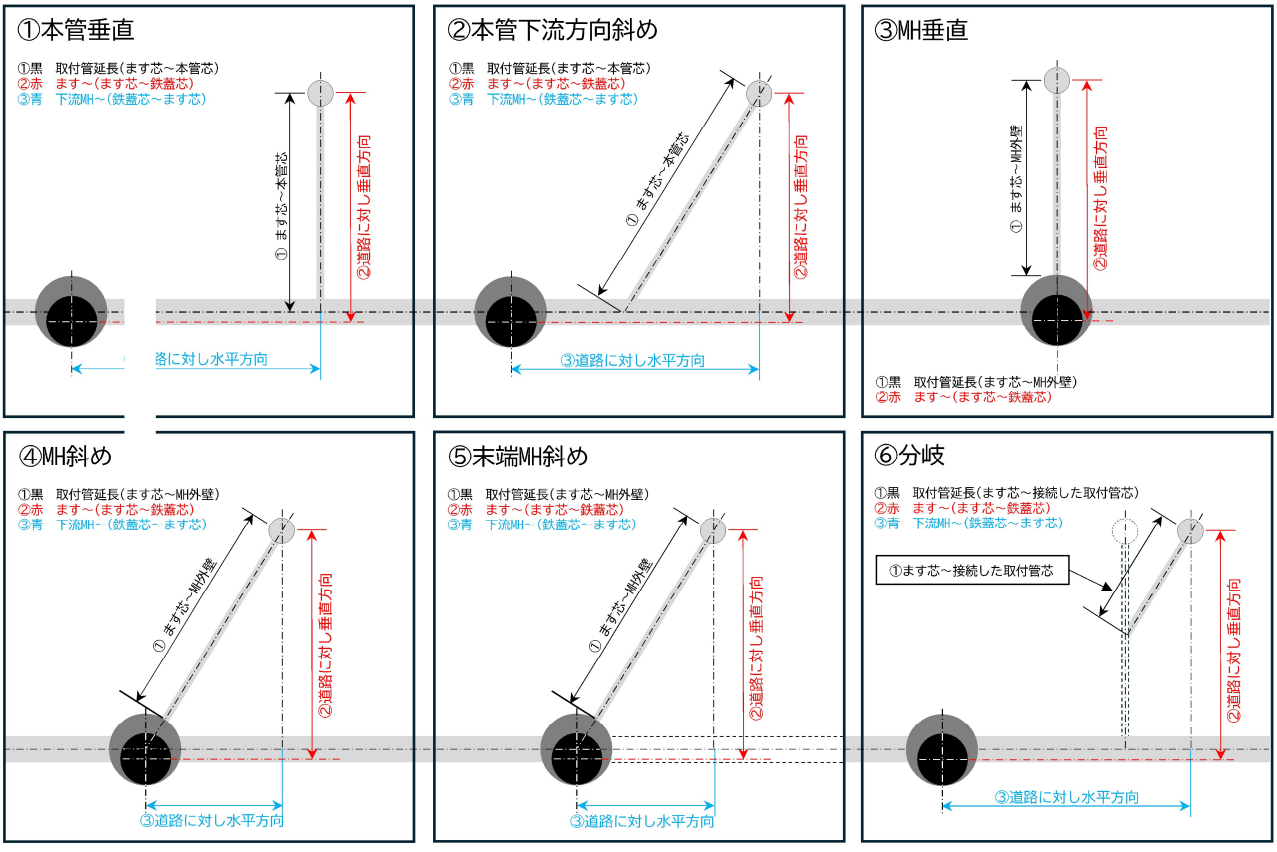
1　延長、管底高、地盤高、土被り等を正確に記載すること。

2　汚水桝、宅地雨水桝の設置位置及び距離は正確に記入すること。

3　既設管渠に人孔を設置した場合には、上流及び下流の各既設人孔からの距離を記入すること。

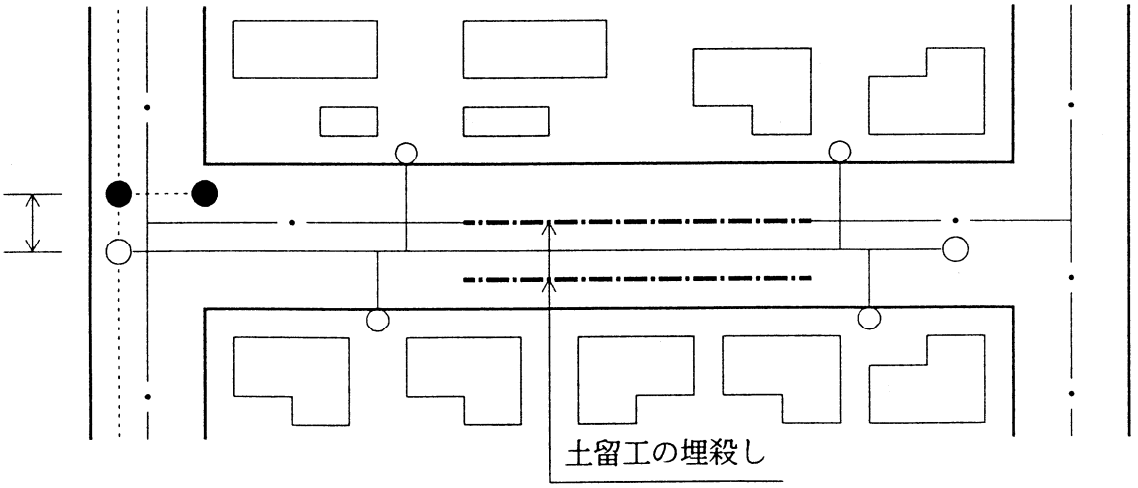
4　公共汚水ます、宅地雨水ます及び取付管については、桝の規格・数量及び取付管の延長（桝中心から本管芯までの水平距離（接続先が人孔の場合は人孔外壁までの水平距離））を記入する。また、ますの設置位置及び距離は人孔中心からます中心までの、道路に対して平行・垂直方向のそれぞれの水平距離を記入すること。水平距離の考え方については、下の図を参考にすること。





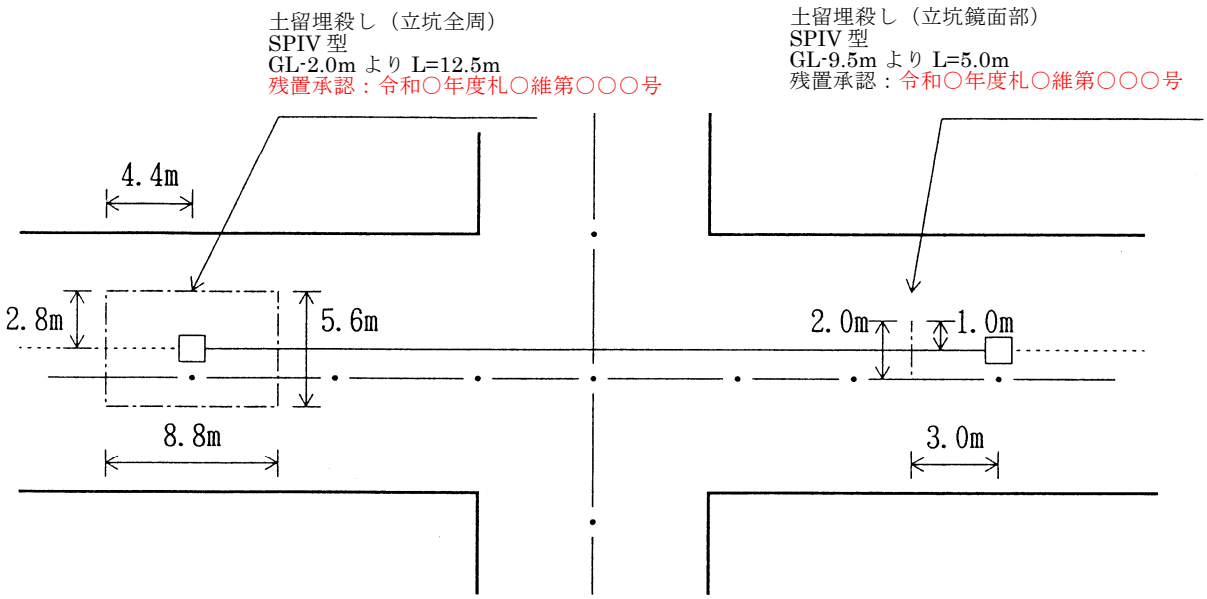
5　埋殺しとした土留工（矢板・支保工）、セメント系の地盤改良杭及び地下連続壁（ＳＭＷ含）等を記載すること。

＜開削の例＞



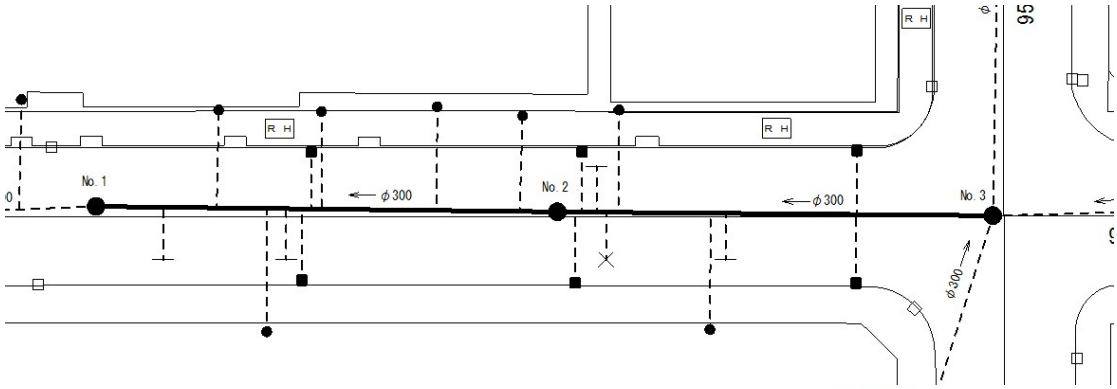
土　留　の　種　類	鋼矢板
埋 殺 し 矢 板 の 長 さ	3.00m（GL-1.5mより）
埋殺し矢板の延長（測点）	35m（測点 30～65）
矢 板 の 遣 い 分 け	２／３
残 置 申 請 承 認 番 号	令和○年度札○維第○○○号

＜推進の例＞



※支保工も埋殺しの場合は、原図の余白に部材を明示した立坑断面図を記入すること。

6　管更生工法で施工した場合は、実施工法、管種区分(自立管、二層構造管、複合管)、更生管厚（製管工法の場合は仕上り内径）を縦断面図に記入すること。(管底高、土被り等の表示は更生後の値を記入)

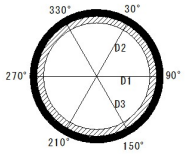


取付管数量	凡例	箇所
汚水桝	-------●	8
雨水桝	-------■	6
不明	-------|	4
閉塞(未せん孔)	-------×	1

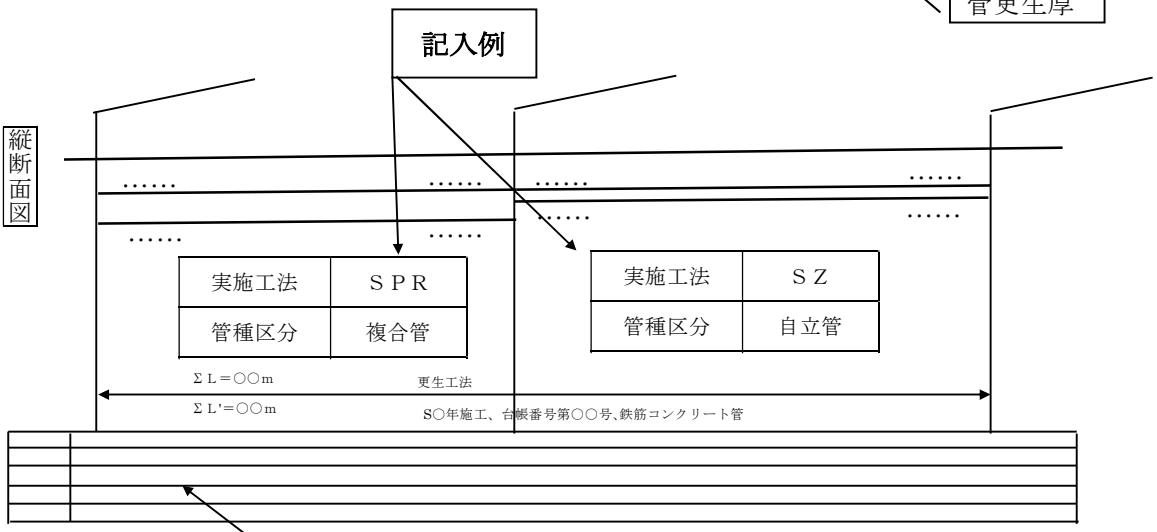
※他に凡例が必要な場合は追加して下さい

実測値【mm】

			施工前	施工後	平均厚
No1	下流	D1	303	281	11.0
		D2	302	281	
		D3	305	282	
No2	下流	D1	303	282	10.7
		D2	301	280	
		D3	301	279	
	上流	D1	304	282	11.2
		D2	308	285	
		D3	306	284	
No3	上流	D1	306	284	11.2
		D2	308	286	
		D3	308	285	



管更生厚



各スパンの両端における数値を記入（土被り、管底高、地盤高）

複合管：土被り＝既設管土被り

自立管：土被り＝既設管土被り＋既設管厚

複合管・自立管共通：管底高＝既設管底高＋更生管厚

令和　　年　　月　　日

札幌市長　○○　○○　　様

受 注 者 名
現場代理人名

工事工程月報　（　　月分）

このことについて、下記のとおり報告いたします

工　事　名		監督員 氏　名	工事主任 技術職員

工種名又は細目	工事出来高			構成比率	工事出来高	備考
	前月末累計	当月出来高	当月末累計			
	%	%	%	%	%	
合　　計				100%	%	実際の進捗率

工事工程表の進捗率	%	翌月分の進捗率見込	%	

特記事項	

日	曜日	天候	主な作業内容		就業人数				
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
計									
累計									

打合せ事項及び指示事項